琉球大学（大学リレー熟議①）

ひとづくりと街づくりの循環に、大学生等が参画することで地域の課題解決がどのように図られるかをテーマに熟議

【日　時】平成２３年６月１２日（日）

【テーマ】イチャリバチョーデー琉球大学からの発信
～ひとづくりとまちづくり　その循環に大学と地域はどのように関わればいいか～

【参加者】109名（8～9名×13グループ）
※沖縄県、那覇市、琉球大学生・教職員、地元中学生、高校生、一般参加者、文部科学省職員等

【プログラム】
①10:00～10:10　開催セレモニー
・主催者挨拶　琉球大学長　岩政輝男
・来賓挨拶 沖縄県教育委員会教育長　大城　浩
②10:10～10:30　挨拶　文部科学省生涯学習政策局長　板東久美子
③10:30～11:30インタビュー・ダイアローグ（第一部）
～今、地域あるいは大学で何をしているか～（60分）
・登壇者　兵庫県多可町からくさ塾主宰　小嶋　明
〃　長野県泰阜村NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター代表理事　辻　英之
〃　島根県海士町隠岐島前高校・高校魅力化プロジェクト　岩本　悠
〃　和歌山大学理事（総務・社会連携担当）・副学長　堀内秀雄
〃　香川大学生涯学習教育研究センター長・教授　清國祐二
〃　沖縄県教育委員会教育長　大城　浩
・コメンテーター　文部科学省生涯学習政策局長　板東久美子
・インタビューアー　琉球大学学長補佐・教育学部教授　井上講四
※休憩（90分）昼食
④13:00～13:10　主催者説明～「熟議とは？」（文部科学省）
⑤13:10～15:25　リアル熟議
～地域と共生する大学、具体的には何をどのようにすればいいか～
13グループ（参加者109名）＋ファシリテーター（13名）
※休憩（10分）
⑥15:35～16:50　インタビュー・ダイアローグ（第二部）～リアル熟議を受けて～
⑦16:50～17:00　今後の「全国縦断熟議」の展開等について
文部科学省生涯学習推進課長　藤野公之
⑧17:00　閉会

議論の内容（抜粋）

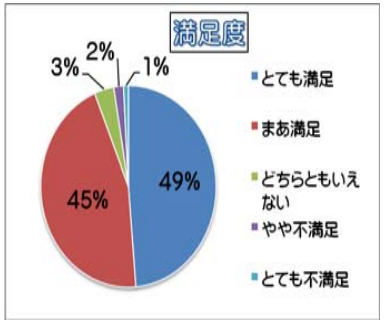
・大学と地域のつながりが希薄化しており、互いの情報が不足している
　→大学が地域の声（ニーズ）にもっと積極的に耳を傾ける必要がある。大学が地域を知り、積極的に地域と関わりを持つことで、地域経済の活性化や地域の人と人とのつながりを深めることができる（地域の牽引役としての期待）
　→大学が地域の人との交流会の開催や施設をもっと開放することで、地域・地元を知ることができる
　→大学が地域の人々との交流の場として、地域の最前線にサテライト、サロン・カフェなどを設置する　など

・大学が、地域で働く人材の育成等に、もっと積極的に取り組む必要がある
　→人材交流（大学や民間、NPO等の間）、コーディネータの養成、人材育成に関連した公開講座・開放授業の積極的な実施、地元企業への学生インターンシップの充実
　→大学と公民館が連携した相談室の設置、大学と企業によるベンチャー講座の開講　など

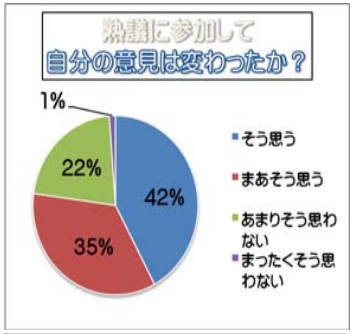
・地元に元気な若者が少ない、離島出身者の学費負担、若者が島に帰ってこない、地域の高齢化　など
　→離島出身学生への授業料割引、島留学の受入れ、離島へ教員や学生を派遣し児童生徒と交流
　→大学は、地域における「まちづくり」へ学生等を積極的に活用
　→学生のボランティア活動の単位化、大学に学生バンク（ボランティアセンターなど）を設置
　→高齢者の敬老イベントなどを大学生と中学生がともにつくる（中学生グループの意見）　など

アンケート結果

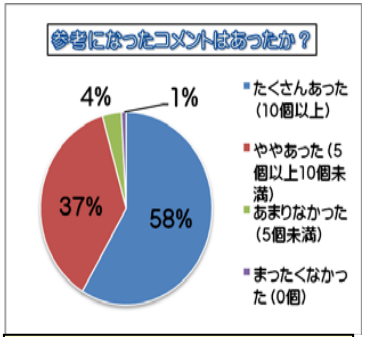
※熟議による高い効果が見られる



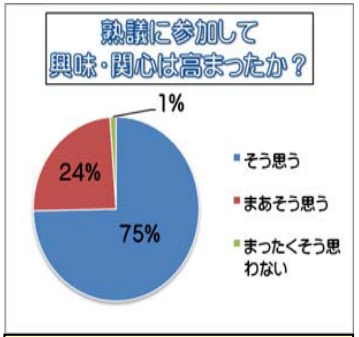
満足度：94%



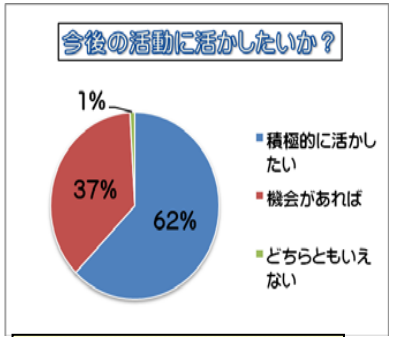
熟議参加前からの意見の変化：77%



参考となるコメント（5個以上）：95%



地域や大学への興味・関心の高まり：99%



今後の活動への活用意欲：99%

※この熟議をきっかけに、琉球大学では、「生涯学習・地域づくり関係者のためのワークショップ講座」を実施（9月）したほか、離島を多数抱える大学の特色に鑑み、平成24年2月には八重山地区においてリアル熟議を実施。